

10年後見据えた防衛力

元空自航空支援集団司令官 織田邦男さん(57)



私のマニフェスト

〈メモ〉09年度の日本の防衛関係費は4兆7740億円。防衛省が各国の01年度と08年度の国防費額を比較したところ、米国2・1倍、ロシア4・8倍、中国3・5倍、韓国2・4倍、英1・7倍、独1・8倍だった。

している中国は日本周辺での活動を活性化させています。

戦闘機のパイロットとして領空侵犯の監視任務につきながら、防衛力整備にかかわって35年。今春、航空自衛隊を退官しました。

財政事情が極めて厳しいことは承知していますが、それでも日本の防衛費が09年度まで7年連続で減っていることに危惧を抱いています。

周辺情勢を見てくさい。北朝鮮は今年、弾道ミサイルを発射。核実験も強行しました。21年連続10%以上国防費を増やして装備を近代化

しかも、軍事技術は日進月歩。日本だけが防衛費を減らしている、追いつけないどころか、取り残されます。例えば、私も乗っていたF15は米軍が使っているのと同じです。ところが、米軍は18カ月に1回、機体のソフトウェアの能力を向上させているのです。その結果、見た目は同じF15でも、仕様の全く違う機体になっていきます。日米共同訓練をやると、彼我の違いはもろに出ます。その差はどうしていると思いませんか？ 隊

員の技術でしのぐほかないのです。でも、これも限界があります。問題意識を持っていれば、予算がないのでも「とにかく、予算がないので」とあきらめ顔。士気に影響しかねないのが実情です。

そもそも「前年比減」の流れを止めて、弾道ミサイル防衛や周辺海域・空域の監視能力の強化の装備に思い切った重点投資するべき時です。そして、装備の向上と同時に、カネのからない安全保障政策、例えば「核の傘」のありかたや評価をめぐって米国と徹底的に議論することも必要

です。安全保障問題は、長い目でみると議論をしていることが対外的な抑止力になるからです。

自衛隊の装備品の調達、隊員の教育・訓練といった防衛力整備は10年単位で考えるべきものですから、国会議員にはつねに10年後の日本の安全を考えてほしいのですが、現状はどうでしょう。政権交代がかかっている選挙だということに、聞かえのいい話ばかりが争点になっているようで残念でなりません。

(聞き手 土居貴輝)

記事への意見、携帯からも募集

記事への意見を募集中。QRコードから、携帯電話でさくアセスしてください。アサヒ・コムの特集ページ(<http://www.asahi.com/special/09016/>)からも投稿できます。

